

ぼくが初めてアメリカへ行つたときのはなし

みなさんは「アメリカ」といえば何をイメージするだろうか？ ニューヨークの摩天楼とか、ハリウッド映画とか、トランプ大統領とか、おそらくそんな感じの画が浮かび上がるのがほとんどだろう。ぼく自身、こんなイメージを留学する前は思っていた。今回、語学研修として、ロサンゼルス近郊にいるカリフォルニア大学アーバイン校で一ヶ月間、留学することになった。ロサンゼルスといえば、ニューヨークとは真反対の場所にあるし、アメリカの中で最も治安が結構悪い場所として有名だが、もしかしたら今まで思っていたイメージとは違い、アメリカの裏事情が生で見られるのではないかと内心、少しどキドキしていた。

そもそも、なぜアメリカへ行こうと思ったのか。それは、単純に英語を習っているからだ。中学や高校で習う英語は、大体、アメリカ式の英語だし、アメリカ式の発音で習う。ニュースでもビジネスでも、アメリカを話題にしたもの、アメリカ発の製品・サービスが軒を連ねることも多く、もしかしたら、隣国の中でもアメリカの存在感のほうが大きいのではないかという気がしてくる。英語英文学科に入つてしまつたぼくとしても、英語を習っている以上、

「アメリカを知らずに世界は語れない」と勝手に思つていたので、一ヶ月八〇万円以上（実際にはもつと使うことになるが…）という人生で一番、親に「絶対、働いたら返すからね！」と心中で罪悪感とともに何度も叫んだ、アメリカへの語学留学を決意するに至つた。

一一時間を超すフライ特急。狭すぎる場所での食事。寝ようにも寝られない、直角のベッド。睡眠不足を発症してようやく着いたのは、アメリカのロサンゼルス空港だった。ながいながい入国審査を終えて出口へ向かうと、そこにいたのは、W.I.S.E（ホームステイの仲介ボランティアを行つてゐる組織）が用意してくれていた、大きいアメリカサイズのパン。（あとでちやつかりお金を徴収してくださいました。）それ



神大生でビーチに行ったときの写真。

外国語学部 英語英文学科 3年 親泊 一真

と一時間弱。みんなのホストファミリーが、ぼくたちのために集結していた公園で三〇分ほど待つてみると、ホストファミリー歴およそ三〇年の、ベテラン感丸出しの夫婦が、まるでみんなより早く到着したかのようになつてきました。その後、彼らの自家用車に乗り込んで、ホームステイ先の家に到着。自分の部屋に入るや否や、睡眠不足で疲弊していたぼくは、ぐっすり眠りこんでしまつた。

翌日、ホストファミリーが運転してくれる自家用車で大学へ。その道すがら、このバスを使って、この道へ行き、この標識を目印にして、と、英語がよくわからないぼくを前に、バチバチの英語で大学への行き方を説明してくれた夫婦に感謝する一方で、今日は朝からオリエンテーションを兼ねたプレイスマントテスト。なぜか英検一級の単語帳を日本から持つてきていたぼくは、まつたくテストに出てこない範囲を、眠い目をこすりながら読んでいた。その結果、ぼくの英語レベルは、High-intermediate（上から一番目）に評価され、「お、わるくないんじやない？」と思っていたら、近くで受験していた東大生の日本たちが、余裕でAdvanced（一番上）をとるのを見るにつけ、あつけなく自信を失つてしまつた。



奇抜なコーン。怖くて食べられなかった。



お祭りの屋台。チキンやハンバーガーが多い。



アリスさんと二人でハリウッドに行ったときの写真。



カリフォルニア州は、トランプ大統領に反対する人が多い。



グリフィス天文台で撮った夜景。とてもきれい。

そんなこんなで、年間学費一〇〇〇万円以上の貴族大学、カリフォルニア大学アーバイン校の語学センターで一ヶ月間英語を習うことになったが、やはりアメリカだけあって、すべての生活がキャンパスだけで完結するほどの広さ。スーパーや書店があるのはもちろん、映画館やちょっとしたバー、演劇場、公園、レストラン街。さらには、近くの学生が住んでいる無数のアパート（デカい駐車場付き）も大学の敷地内というから、正直どこが大学の外で、どこが大学の中なのか、わからない。そこにあるのは、キャンパスではなく、一つの街というレベル。「やっぱりお金があるところは違うな」と一人で納得してしまった。ホストファミリーも、その大学へよく買物に行くというから、大学は大学生だけの場所ではなく、地域みんなの場所なんだということがよく分かった。

授業は朝九時から一三時までの四時間で、なぜか神大からの学生以外は、一二時で終了だった。その大学の人達に聞いてみると、語学ビザを取得すれば、もう一時間エクストラで授業を受けられるらしい。

なるほど、だからビザ取得に時間がかかっていたのか、そして大学から単位をもらえない学生がほとんどだらしく、おそらく神大生といくつかの大学だけが、二単位のためにエクストラ授業を受けていたのだ。

その授業は、ぼくにとって一番の鬼門だった。Pronunciation and VocabularyとBusiness Writing の二択だったのだが、せっかくなので、あえて勉強したことのないビジネス系の英語を挑戦してみることにした。ところが、使われている英語の語彙が大変難しく、これでも現地からしたら基礎的な内容とい

うからびっくり。アメリカの大学に入学したら、もつぱりお金があるところは違うな」と一人で納得してしまった。ホストファミリーも、その大学へよく買物に行くというから、大学は大学生だけの場所ではなく、地域みんなの場所なんだということがよく分かった。

授業は朝九時から一三時までの四時間で、なぜか神大からの学生以外は、一二時で終了だった。その大学の人達に聞いてみると、語学ビザを取得すれば、もう一時間エクストラで授業を受けられるらしい。

授業は朝九時から一三時までの四時間で、なぜか神大からの学生以外は、一二時で終了だった。その大学の人達に聞いてみると、語学ビザを取得すれば、もう一時間エクストラで授業を受けられるらしい。

メージ、食事、文化、考え方についての違いをあれこれ言い合って「相互理解」「国際交流」つてこういうことをいうのだなーとなんとなく実感した。さらには、留学と全く関係ないが、日本経済新聞に勤めている記者と日本人学生で、日本の政治・経済・科学技術について議論したり、（なぜか白熱。）途中で帰国する学生のために、学生同士でバーベキューを開いてお祝いをしたりと、鬼門でありながら、一番、留学を味わえた授業でもあった。

そして、そこで出会った明治大学の学生がすでに八ヵ月間、アメリカを留学していることもあって、まだまだウブなぼくが不安そうに見えたからという理由で、その方と一緒に、授業が終わったらほぼ毎日、大学の周りの散策、ロサンゼルスでの買い物、近くのビーチでサーフィンをしたりと、人生で一番、充実した一ヶ月間を過ごしてしまった。それだけではなく、大学のツアーとして、近くの巨大な遊園地、サンタモニカビーチ（超おしゃれ）、ハリウッド、



ユニバの入り口にあるサイン。
人が多くて大変だった。



エンジェルスのホーム球場。大谷選手を
生で見られた!



放課後によく遊んだ3人で撮った写真。
楽しかった。

ユニバーサルスタジオハリウッド（一万三〇〇〇円）、ディズニーランド（一万五〇〇〇円）など、一食二〇〇〇円もするランチを堪能したりもしたため、ついに金銭感覚が崩壊した。そういえば、移動にはクレカ払いとUberを使っていたりして、いつの間にか、お金が口座からだいぶ減っている現象も発生。ラスベガスに行つた友達には、三〇万賭けて全部失つた人もいて、えげつないカオス状態だった。

こういう感じで、アメリカの文化を授業として朝だけ学んで、昼と夜は何をしているのかよくわからぬ一ヶ月だったが、それもいい経験だとぼくは思っている。おかげで、多くのお金を使うのなら、遊ぶのではなく、一番自分がやつてみたいことに使うことにしよう、と確信した。

そして実はもう一つ、アメリカのカリフォルニア州に留学した目的がある。それは、アリスさんに会うためだ。アリスさんは、ぼくが大学一年生のころに、国際センター主催の日日プログラムで初めて出会つた。一緒に食事に行つたり、みなとみらいや、東京の浅草へ行つたりして、日本の観光名所を案内

ユニバーサルスタジオハリウッド（一万三〇〇〇円）、ディズニーランド（一万五〇〇〇円）など、一食二〇〇〇円もするランチを堪能したりもしたため、ついに金銭感覚が崩壊した。そういえば、移動にはクレカ払いとUberを使っていたりして、いつの間にか、お金が口座からだいぶ減っている現象も発生。ラスベガスに行つた友達には、三〇万賭けて全部失つた人もいて、えげつないカオス状態だった。

こういう感じで、アメリカの文化を授業として朝だけ学んで、昼と夜は何をしているのかよくわからぬ一ヶ月だったが、それもいい経験だとぼくは思っている。おかげで、多くのお金を使うのなら、遊ぶのではなく、一番自分がやつてみたいことに使うことにしよう、と確信した。

こんな感じで、まだまだ書き足りないが、（ハンバーガー研究会を立ち上げ、どの店のハンバーガーが一番おいしいか研究したりもしていた。ちなみに、「インエヌアウト」という店が、格安でおいしい。）

人生で一番豊かな生活を過ごしていたそんな中、アメリカの負の側面も少し見つかった。それはダウンタウンへ行つたとき、ホームレスらしき男性の姿をたくさん見かけたことだ。そしてトイレもないのか、路上で排泄をしたり、向かってくる歩行者を必要以上に見下す態度を取るなど、社会の問題を目の当たりにした。それでも、まだまだ書き足りないが、（ハンバーガー研究会を立ち上げ、どの店のハンバーガーが一番おいしいか研究したりもしていた。ちなみに、「インエヌアウト」という店が、格安でおいしい。）

一ヶ月間で何を学んだのかと問われると、自分自身、いったい何を学んだんだっかと思うほど、海外留学はいろんなことを経験できる。強いて言うなら、日本との違いをたくさん見つけて、視野を広くでき、英語をもつと勉強しようという気になれる、そしてもっと違った世界を見てみたいと思えた留学生活だった。でも、ちゃんとその質問に答えたいなら、ある「テーマ」を設定して、留学してみるといいかもしれない。たとえば、テーマが「英語の上達」であれば、上達のためにどうするのか、という視点で生活できる。いずれにしても、いろんな経験ができるることは間違いないから、恐れずにどんどん海外へ足を伸ばしてほしい。その経験を通して、自分の人

していくうちに、仲良くなつた。二年ぶりの異国での再会もあつて、少し緊張していたが、アリスさんは大きめの自家用車に乗つてホストファミリーの家まで迎えに来てくれた。ロサンゼルスの隠れ名所や、少し遠い、南部のサンディエゴ、メキシコとの国境まで案内してくれて、ぼくよりも何倍も親切にいろんなところへ連れて行つてくれた。最後には、別れを惜しむ手紙をもらい、もつと英語を勉強して、次に会うときは、ちゃんとした英語で話せるようになりたいなと思った。留学生活で、一番思い出に残る出来事となつた。

こんな感じで、まだまだ書き足りないが、（ハンバーガー研究会を立ち上げ、どの店のハンバーガーが一番おいしいか研究したりもしていた。ちなみに、「インエヌアウト」という店が、格安でおいしい。）

人生で一番豊かな生活を過ごしていたそんな中、アメリカの負の側面も少し見つかった。それはダウンタウンへ行つたとき、ホームレスらしき男性の姿をたくさん見かけたことだ。そしてトイレもないのか、路上で排泄をしたり、向かってくる歩行者を必要以上に見下す態度を取るなど、社会の問題を目の当たりにした。それでも、まだまだ書き足りないが、（ハンバーガー研究会を立ち上げ、どの店のハンバーガーが一番おいしいか研究したりもしていた。ちなみに、「インエヌアウト」という店が、格安でおいしい。）

一ヶ月間で何を学んだのかと問われると、自分自身、いったい何を学んだんだっかと思うほど、海外留学はいろんなことを経験できる。強いて言うなら、日本との違いをたくさん見つけて、視野を広くでき、英語をもつと勉強しようという気になれる、そしてもっと違った世界を見てみたいと思えた留学生活だった。でも、ちゃんとその質問に答えたいなら、ある「テーマ」を設定して、留学してみるといいかもしれない。たとえば、テーマが「英語の上達」であれば、上達のためにどうするのか、という視点で生活できる。いずれにしても、いろんな経験ができるることは間違いないから、恐れずにどんどん海外へ足を伸ばしてほしい。その経験を通して、自分の人